

肝臓の特徴は？

「沈黙の臓器」



肝細胞の大部分が壊れてしまうまで、
自覚症状があらわれにくい！

◆がまん強い，がんばりやさん

自覚症状が出にくい！！

◆症状が出る前にいたわることが大切！

本当なの？

本当です

腹部 CT

B型肝炎に罹患していたのに

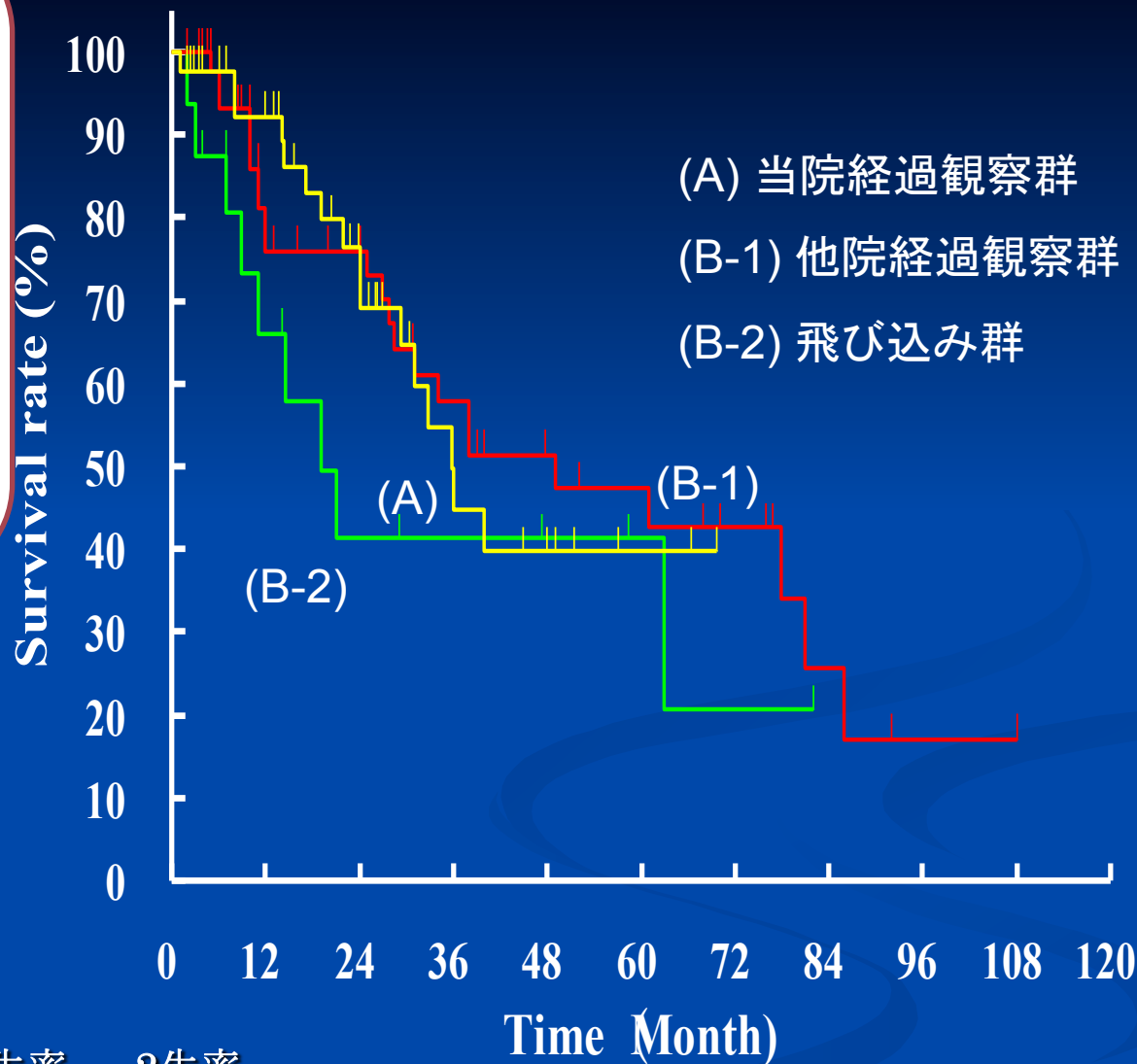
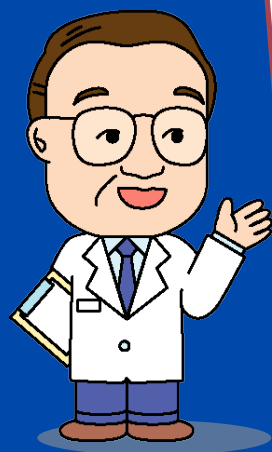
受診せずにいた50歳
台の女性の患者さん

偶然に右のような肝
臓癌が発見

B型肝炎の治療をし
ていれば。。。



当院の肝がん生存曲線
です。
検診を受けてない飛び込
み群の予後が非常に悪
い！
慢性肝疾患の状態で早
期受診・早期治療を行え
ば、発癌抑制も可能であ
る。



1生率 2生率

(A) 当院経過観察群	92.2%	73.1%
(B-1) 他院経過観察群	76.2%	69.2%
(B-2) 飛び込み群	66.2%	41.5%

肝臓病教室運営チームって何？

- ◆ 患者さんやそのご家族への情報提供及び、疾患への不安を精神的にサポートし、疾患や治療に対する不安の払拭、治療に対するモチベーションの向上を目的とする

肝疾患は治る時代になりました。

- ◆ 病診連携と併せた院外への積極的な働きかけ、啓蒙活動を行い、肝疾患治療を促進して

肝がん撲滅

を目的とする

肝臓病教室活動状況

スタッフの構成

医師・薬剤師・管理栄養士・臨床工学士
・看護師・医事課 計12名

- ① 月1回以上のミーティング・肝疾患の勉強会を開催
- ② 年3回の肝臓病教室・セミナーの開催
- ③ 肝臓病教室・セミナーのアンケート集計、検討
- ④ 各学会、研究会の
参加、発表、講演



肝臓病教室の実際

対象者

当院受診中の患者と家族

肝疾患連携パスより案内

参加方法

事前申し込みを中心に、当日の参加も可能

現在は申し込み人数制限なし

当院に申し込み用紙設置、ホームページに掲載

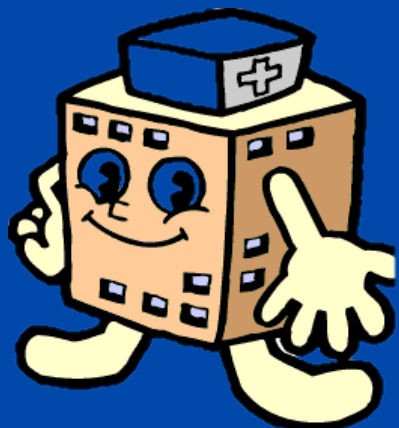
教室の内容

前半は各担当による講義

後半は希望制による懇談会

懇談会では当日の人数により7～8名程に分かれて、日常生活の問題点・現在行っている治療や副作用などテーマを決めずに情報交換を行う。

懇談会にはスタッフも一緒に入り、必要に応じ質疑応答するが、患者さんや家族が中心となり活発に情報交換が行われている。



肝臓は沈黙の臓器です！ですから・・・

肝臓病教室 各担当の講義



食事で気を付けていただきたいのは・・・

主な食品の鉄含有量②

	いも類・大豆類	野菜・きのこ・海草	果物・嗜好飲料	お菓子・調味料 加工品
リンゴ	芋は、問題なし。 大豆製品は、多量摂取を控える。	野菜・きのこの鉄の吸収率は低いので、摂り過ぎに注意すれば、心配なし。ひじきに注意	果物は、間食で。コーヒー・緑茶は食事と共に。	カレーよりハヤシを。卵やあんこを使用したお菓子は控えめに。味噌汁を清ましに変えると鉄の節約
多い		干しひじき (5g)		レトルトのカレー (1人分)
やや多い		高野豆腐 (1個 20g) こしあん (40g)		エートソース (1人分)
やや少ない	納豆 (小1個) 木綿豆腐 (1/4) きつまま芋 (90g)	ほうれん草 (60g) コーン (110g) 小松菜 (30g) 枝豆 (30・15さや)	抹茶 (1杯分) ビュココア (1杯分)	冷凍ピラフ カスタードプリン ミルクチョコレート 味噌(みそ汁1杯) カレールー
少ない	自然薯 じゃがいも 長いも こんにゃく はちみつ 砂糖	ごぼう (1/4本) ピーマン2個 キャベツ 85g ブロッコリー 25g 茄子 (1本) レタス (1/4個) トマト (1/2個) 人参 (1/4本)	すいか バナナ イチゴ 煎茶 メロン みかん インスタントコーヒー 紅茶	大福もち1個 カスタード 50g ハヤシルー くし餅子 マヨネーズ せんべい

レトルトカレーは、チェックを！



教室では、毎回テーマに合わせた講義内容を検討し、資料を作成、配布しています。



肝臓病

インターフェロンを
受けよう

検診を受けて
みよう

セミナー

新潟ユニゾンプラザ
308名の参加



肝臓病教室発足の経緯

平成20年 10月 慶応義塾大学病院 肝臓病教室見学

11月 当院教室立ち上げMeeting開始
目標テーマは「**肝がん 撲滅**」で一致。運営方針を固める

院内での活動状況（参加人数 懇談会人数）

平成23年 3月7日	第1回肝臓病教室開催	117名	14名
7月11日	第2回肝臓病教室開催	154名	不明
10月31日	第3回肝臓病教室開催	219名	29名
平成22年 3月13日	第4回肝臓病教室開催	225名	26名
7月3日	第5回肝臓病教室開催	208名	29名
11月6日	第6回肝臓病教室開催	185名	26名
3月19日	第7回肝臓病教室開催	190名	20名
7月30日	第8回肝臓病教室開催	180名	28名

院外での活動状況

平成22年	2月 6日	第7回東京肝疾患患者指導研究会 特別講演
	3月27日	第34回リバーカンファレンスにて発表
	9月10日	平成22年度新潟県肝疾患診療従事者講演会 (ANA)にて講演
	11月26日	平成22年度新潟県肝疾患診療従事者講演会(上 越)にて講演
	12月 2日	
	~3日	第38回日本肝臓学会東部会にて発表
平成23年	3月12日	リバーカンファレンスにて発表
	7月15日	平成23年度新潟県肝疾患診療従事者講習会(朱 鷺メッセ)にて講演
	11月19日	肝臓病セミナー(新潟ユニゾンプラザにて)

参加者308名



肝疾患の予後改善を目指して②

済生会新潟第二病院における肝疾患病診連携と肝臓病教室立ち上げの現状と展望

済生会新潟第二病院 消化器内科 石川 達

前稿では、済生会新潟第二病院における肝疾患連携クリニックの試みについて概説したが、病院から患者さんへ情報発信し、連携バスのなかで患者さんの囲い込みをするかは重要なテーマである。本稿においては、肝疾患病診連携における肝臓病教室立ち上げの現状と展望について概説する。

肝臓病危険群の囲い込みの重要性

日本の肝臓学会のサーベイランスにおいて、60%以上は根治的治療が可能と考えられ、5年生存率は43%と世界一の予後にまで成長した。米国の11%、韓国の19%に比べて有意に優れているが、さらに早期発見を目指すれば、さらなる予後改善は明白であろう。

当科における初発肝細胞癌の発見契機からみた

予後解析

当科における初発肝細胞癌の発見契機を検討すると、症状発現時に来院された症例においては極めて予後不良であることが判明した(図1)。これはスタッフ自身も身に感じていた事実であり、肝細胞癌はリスク因子が判明していることからリスクを抱えた患者さんへ事前に情報提供を行い、また、受診を勧奨することが極めて重要な予防医学であり、肝細胞癌の予後改善に寄与する。

肝臓病教室立ち上げの契機と現状

肝細胞癌撲滅へ向けて病院が今できることを再考し、平成20年(2008年)10月に肝臓病教室の先駆者である慶應義塾大学病院肝臓病教室を見学のもと、当院においても肝臓病教室を立ち上げることになった。現在、医師、薬剤師、栄養管理士、看護師、臨床工学士、医事課の12名でのチーム医療として活動している(図2)。

当院10階会議室にて年に3回、土曜日の午後1時30分～3時30分の2時間、慢性肝炎、肝硬変、肝臓の患者さんとその家

族を対象とし、前半は講義形式とし、後半は希望者にグループワーク形式で、質疑応答を実施している(図3)。各グループには、医師、薬剤師、栄養管理士、看護師、臨床工学士、医事課が分担し配置する。

グループワークでは、日常生活の問題点や、インターフェロン治療などの体験談などの情報交換が活発に行われている。第1回「慢性肝炎」では117名、第2回「肝硬変」154名、第3回「肝臓がん」219名と、その後も毎回200名以上の多数の方が参加されている。

たとえば、肝臓病教室アンケート(第1回「慢性肝炎」)では、グループワーク後、自分だけがインターフェロン治療で苦しんでいるのではなく、ほかの患者さんも苦労していることを知ることができ、外来待合での共感できる人ができた、などの意見もあり、事実、インターフェロン治療のドロップアウトが減っている。また、病状に対する認識の変化も認められ、患者さん同士の情報交換が得られている。

肝臓病教室の展望

肝細胞癌の治療は進歩しているが、その予後は腫瘍の進行度のみならず肝障害度によって大きく規定される。したがって、早期の肝細胞癌の発見には、その前段階である慢性肝炎患者を病診連携、肝臓病教室からの情報発信にて、

囲い込みを行うことが必要である。また、肝臓病教室の運営において、各部門とのチーム医療とモチベーションの向上も期待される。

一方で、肝臓病教室や市民公開講座などに参加される人はリピーターが多いので、無関心層にいかにかアピールして参加していただくのが今後の課題である。

病診連携においてどのように診断、治療連携を進めるべきか、また、病院が地域に根差した患者さんの教育に対して、肝臓病教室は大きな任務を担っている。

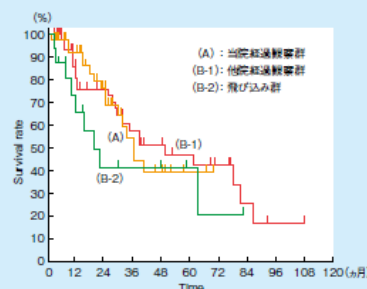


図1 当院における肝細胞癌の発見契機による生存率



図2 肝臓病教室運営チームスタッフ



図3 肝臓病教室講義の様子



今後も病診連携と併せた活動を行い、
肝がん撲滅を目指します！